教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 山名幸一
編集人 泉 雄一郎
電話 050（3538）2346
1部7円 年定価280円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2012/3・1
No. 1808

2面
・震災シンポジウム「いきる つながる みちひらく」

教育文化・社会貢献事業

車椅子・福祉自動車・児童養護施設　寄贈式

「中学校でも努力して頑張って使っていきたいです」

こうしたこれまでのとりくみは、「ひょうご教育フェスティバル」での展示ゾーンで紹介し、教職員や保護者・県民のみなさんにこの事業への理解を深めていただいている。また、今年度は兵庫県学校厚生会・日本教育公務員弘済会・兵庫県教育会館の3団体にも公益事業の一環としてこの事業に賛同いただき、共催いただいた。

みなさんからの「協賛金」は、こうした福祉自動車等の寄贈事業や就学援助事業、教育・文化助成事業などのさまざまな社会貢献活動に活用されている。

兵教組・社会貢献事業「車椅子・福祉自動車・児童養護施設支援」寄贈式が、2月19日にラッセホールでおこなわれ、県内の小中学生9人を含む関係者約100人が参加した。

兵教組は、1979年度より障害児（者）との連携をはかるため、障害児（者）施設へのバス等の寄贈事業をすすめてきた。1983年度からは、車椅子の寄贈もあわせておこなっている。また、2007年度からは兵教組の「教育文化・社会貢献事業」として発展的に見直し、多くの教職員の協賛金により運営している。

今年度の寄贈式では「菜の花」「作業所ほのぼの」の2施設に福祉自動車を、鷲東建志さんをはじめとする9人に車椅子を寄贈した。また、児童養護施設等への支援事業では「同朋学園」「夢野こどもホーム」「神戸真生塾」「出石精和園児童寮」の4施設を財政支援した。これまでに贈った福祉自動車は122台、車椅子は528台、支援した施設は14施設にのぼる。

寄贈した福祉自動車

川西市立東谷小6年 鷲東建志さんからの挨拶

「僕は社会貢献事業でこんなとりくみをしているとは知りませんでした。今回応募で当たるとは思ってもみなかったのでとても嬉しかったです。このいただいた車椅子は少し大きめに作ったので中学校でも努力し頑張って使っていきたいと思います。本当に車椅子をいただきありがとうございました。」

青年教職員としての実践力を高めていこう！

青年部　教育実践講座・後期

2月4日に青年部教育実践講座（後期）がラッセホールにておこなわれ、県内各地から84人の青年教職員が集まった。

井上青年部長

講座は「日本語、算数・数学、理科、体育、総合学習、平和教育、障害児教育、人権教育、生活指導、防災教育」と10の分科会ですすめられた。

分科会は前期と同じ参加者で実施され、それぞれの実践や子どもたちの様子についてのリポートをもちより、実践交流や意見交流がおこなわれた。

参加者の感想からは、「前期と同じ人たちと話し合いができ良かった」「自分や周りの人がどんな実践をしたのかを報告し合え、良かった」「力量を高められる機会になった」と積極的なものが多くあった。

成功例だけでなく、悩みや失敗談を互いに語ることで明日からの実践にむけて交流を深めることができ、大きな成果を得ることができた。

参加者の感想

◎子どものせいにするのではなく、自分を振り返り、分析して自分自身が変わることが大事だと分かった。何をすべきか前向きに考える大切さを感じた。（障害児教育）

◎人権教育の授業では、教員も本音を語らないと、子どもも話せない。いままで格好いいことばかり言ってなかったかと反省した。本音の話を子どもとしたいと思った。（人権教育）

◎中学校でのとりくみを聞けたことができてよかった。小・中連携の大切さをあらためて感じた。（生活指導）

◎それぞれの実践が聞けて勉強になった。体育の授業では教員のアイデアと場の設定が大切だと思った。頭を柔らかくして工夫をしていきたい。（体育）

◎「怖いと脅すのではなく、楽しんで防災教育をすることが大切」という話が印象に残った。（防災教育）

◎子どもたちが「苦手」と感じやすい教科だからこそ「分かった」につながるような教材研究を積んでいきたい。（算数・数学）

◎講師の先生にたくさんの教材やネタを紹介してもらえてよかった。煮干しの解剖は子どもたちにも実践させてみたい。（理科）

組合運動の歴史 現場実践を学ぼう

事務職員部

青年事務職員実践講座

1月27日に「第4回 青年事務職員実践講座」がラッセホールにて開催された。

講座Ⅰでは元兵教組姫路支部女性部長・事務職員部副部長の藤原留理子さんから、「出産・育児をめぐる諸権利獲得のたたかい」をテーマに話をいただいた。出産・育児をめぐる学校事務職員の諸権利を獲得するまでの道のりが語られた。

講座Ⅱのグループワークでは「これからの学校事務のあり方を考える」をテーマに、5つのグループに分かれてすすめられ、ワークライフバランス、子育て支援、休暇制度への関わりなど、事務職員の働き方について話し合いがおこなわれた。

学校事務職員としての日々の仕事の悩みをはじめ、子育てをされている方の悩みも共有され、互いの思いを尊重する時間となった。

参加者の感想

●講座

◎一つひとつの制度について、実際の運動の話をまじえながら説明していただき、イメージしやすく分かりやすかった。

◎制度一つでも実際に動き出すまでに、様々な運動やとりくみ、苦悩があったのだと思わされた。

◎今の時代は、昔の組合員の方々のおかげで、たくさんの制度が確立されたことが分かった。

●グループワーク

◎先輩からのアドバイスや、他の人が実践していることも聞けて、明日から自分もやってみようと思うことがたくさんあった。

◎意見が言いやすい雰囲気をつくってくださり、とても話しやすかった。

◎悩んでいるのは自分だけじゃない、と分かり安心した。

交通災害共済は、死亡・後遺障害・入院・手術、通院のみでも補償。賠償補償もついています！
ケガが原因なら　おまけに
教職員共済
5月加入 3月20日〆切

1. 交通災害補償
交通事故によるケガを補償
たとえば 自転車どうしで衝突して骨折した！

2. 一般傷害補償
交通事故以外の傷害事故によるケガを補償
たとえば ジョギング中にアキレス腱を断裂！

3. 個人賠償責任補償
日常生活で偶然起こった事故による法律上の賠償責任を補償
たとえば 自分の子が自転車で他人をはねて大ケガさせた！

ご家族の賠償責任も補償！
※契約者または配偶者と生計を共にする、同居の親族・別居の未婚の子を含みます。
※自動車事故や、職務遂行に直接起因する損害賠償は除きます。

※この共済は損害保険会社とのセット商品です
※ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書（契約概要・注意喚起情報）をご覧いただき、制度内容をご確認ください。

資料請求・お問い合わせは
教職員共済生活協同組合　兵庫県事業所
〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8
電話（078）221-9730　FAX（078）221-1199
承 11-企-63（1202）